

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675700027号
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371番地 (電話) 0995-74-1488
自己評価作成日	平成 24年 8月 20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑が広がるのどかな農村地帯の一角に、特別養護老人ホームと併設してグループホーム愛の里があり、リビングからは遠く霧島の山々を望むことができる自然豊かな所です。私達職員は、利用者一人ひとりが自分のペースで、やりたい事を自信をもって出来るように、さりげなくサポートするように努めています。また、利用者の方の笑顔と思いを大切にしています。職員・利用者同士の信頼関係を築けるように日々努力しています。又、面会時には御家族の方とも時間の許す限り話をする機会を設け、職員と家族が連携を図りながら支援できるように努めています。地域との交流については、近所にある小学校の運動会や学習発表会に参加し児童との触れ合いを大切にしています。また、町の夏祭りや町の催し物へ出掛けて地域の方との交流に努めています。季節ごとには行事計画を立て、四季を肌で感じて頂けるよう努めています。健康面については日頃の健康管理とともに、毎月1回主治医の定期受診と、協力医療機関は認知症疾患医療センターとしての指定を受けており、専門医が健康面等の支援を行い連携に努めています。又、異常時には早期対応が出来るように、隣接する特別養護老人ホームの看護師との連携にも努めています。利用者の皆様が安心して楽しく生活を送れるように支援していきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな環境に位置し、特別養護老人ホームに隣接して建てられた実績13年目の事業所である。周囲に民家は少ないが地域の小学校、中学校との交流、地域行事への参加、散歩中の声掛けなど、地域との関係作りに努力している。事業所の玄関を入ると広い廊下が左右に分かれ、パッチワークやジグソーパズルなどの作品が飾られている。また中庭からは明るい日差しが入り、食堂からも自然豊かな田畑が見渡せ、利用者の心を和ませている。協力医療機関は認知症センターの指定を受け、専門医による定期受診を行い健康面での支援も充実しており、家族との連絡も取れている。

職員は利用者に対し、その人らしさを大切にし、利用者のペースに合わせる、押し付けはしないなど、本人の能力を見極めながら、職員で作った理念の実践に取り組んでいる。管理者は職員のスキルアップにも協力的で研修や勉強会など積極的に参加を促している。利用者や職員も開設以来長期に渡る方が多く、居心地の良さを感じることができ、利用者が安心した生活が送られるように配慮した支援努力の様子が伺える事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念と愛の里の理念を作成。目に付く場所に掲示しており、ミーティングでは理念をもとに話し合いケアの統一を図っている。	法人とは別に事業所の理念を掲げており、玄関、事務所に掲示されている。職員はミーティングで確認し、押し付けはせずに、その人らしさや本人の能力を見極める事で、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する特養の入居者やデイサービスに来られた方が立ち寄られたり、近くにある小学校や町内の行事に参加している。	町内会には入会はしていないが主任が地域の住民であるため情報は届いており、地域との連携はとれている。中学校からは福祉体験や、小学校は運動会、入学式、発表会など行事に招待され地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	愛の里独自の貢献はなく、在宅介護支援センターを中心に介護予防教室を開催している。運営推進会議を通して委員へは認知症についての勉強会を開催している。実習生の受け入れは積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告し改善点等意見を貰っている。目標達成計画、経過報告行っている。会議内容については職員に議事録をみてもらったり、ミーティングで報告行っている。	会議の主旨を重く考えていたが家族の方も協力的であり、民生委員、地域代表、行政などと話し合いを行い、意見や要望を受け、サービスの向上に活かしている。職員は議事録を全員回覧し情報を共有している。	

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や役場へ訪問し相談行っている。運営推進会議委員に福祉課の方もおり愛の里の現状を伝えている。	市町村や地域包括センターと連絡体制も取れており、流行の病気、福祉関連の案内、リーダー研修会への呼びかけなどすべて情報を共有している。事業所の実情も知ってもらい、空状況なども相談し協力関係を築いている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルの作成、勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。・ミーティングや申し送り時に言葉遣い等には注意するよう呼び掛けを行い、職員同士気付いた時には注意している。利用者の外出傾向を把握しさりげない支援に努めている。	年一回身体拘束委員会や月初めの勉強会で、管理者や全ての職員が身体拘束に関する具体的な行為を理解しており、マニュアルも作成している。外出傾向のある利用者のドアの上部にはさりげなく鳴る鈴を取付けて見守り玄関センサーも動向を把握して鳴る配慮がなされ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修で学ぶ機会を持ち理解浸透を図っている。ミーティング等でケアの振り返りを行い不適切なケアが行われていないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者なし。研修等に参加し理解を深めていきたい。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約、改定時には文書にて細かく説明を行い同意を頂いている。状態の変化による解約時には、その後の対応も含めて話し合い行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族に共に意見や不満、苦情等がないか尋ね話しやすい環境作りに努めている。出された意見や要望等については職員間で話し合い対応している。意見箱の設置も行っている。	面会時や父母の会を通して利用者や家族から意見や要望をうかがい、職員はミーティングで話し合い記録を残し対処している。日々の状況報告で、意見や要望を言える環境づくりなど、利用者や家族の思いを運営に反映させる努力を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティング、勉強会を開催している。管理者は職員の話に耳を傾け、利用者の処遇について助言や、運営に関しても職員の意見を取り入れている。定期的に個別面談開催。	代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、気づきやアイデアを運営に反映させている。スキルアップにも積極的であり働く意欲の向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員が悩み等相談しやすい環境を整えている。資格取得に向けての励ましや支援を行っている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>愛の里独自の勉強会はミーティングと同時に行う為全員参加している。事業所内や外部の研修会については、参加者が伝えたり資料に目を通すようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会を通じて交流を持ち、電話での情報交換を行っている。又、毎月1回地域包括主催の研修会に参加し、困難事例等について意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談行いご本人の心身の状態把握や不安な事、求めている事を理解出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が求めている事や困っている事を良く聞き理解したうえでどのような対応出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・御家族の思いや状況等を確認した上で必要とするサービスにつなげられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事（園芸・裁縫）を教えて頂く場面作りに努めている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者へのサービス提供での困難な状況や日常での生活の様子を伝える事で御家族に協力を求め、自宅での暮らしぶりを参考にしながら一緒に考え、解決できる環境作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や贈り物のやり取り、隣接する特養に入所している知人を訪ねたり、自宅へ戻られた際に知人の方に会われている。馴染みの理髪店や墓参りの支援を行っている。手紙を書かれた際は投函している。	家族や親戚、知人からの贈り物も多く、ドライブを兼ねて自宅や墓参りも、家族や職員と出かけている。隣接している特養へ入所している知人を訪ねたり、盆や正月には外泊も楽しむなど、なじみの人や場とつながりが継続できる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が居室で一緒に過ごせる環境作りをしている。家事やレク活動時は、利用者同士が声を掛け合いながら円滑な関係が保てるように見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合、利用者と一緒に遊びに行ったり、こちらへ遊びに来て頂いている。又、入院時はお見舞いに行ったり、亡くなられた際にはお通夜に参加したり、入院等で退所された御家族の相談を受ける等、本人・御家族との関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や困っている事を聞いたり、言葉や表情などから読み取り、職員間で話し合い対応している。職員だけでは対応できない事は御家族と検討している。	長年の利用者が多く一人ひとりの思い、暮らし方の希望を把握しているが、困難な場合は言葉や表情で読み取っている。利用者の意向は職員間で話し合い家族の協力をもらいながらその人らしく暮らしつづける支援として本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時バックグラウンドシートを御家族に記載して頂いたり、本人からの聞き取りを行っている。本人や御家族と話をすることで情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの変化等個別記録に残し、生活のリズムとパターンを把握している。把握にズレが生じないように情報の共有化を図る為に、申し送りノートの活用、ミーティング等で話し合い確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスを開き、利用者の状態について職員で周知し、その上で介護計画を作成している。御家族や主治医からの情報や助言も踏まえて検討している。モニタリングを行い、状態に応じて介護計画の見直しを行っている。	本人らしく暮らし続けるための介護計画は常に利用者の状況を把握し家族の要望や変化に応じた見直しをしている。職員は家族や主治医の助言も踏まえてモニタリングを行い、課題とケアに必要な支援を盛り込んだ介護計画を作り現状に即している。	

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成、記入し朝の申し送り時に報告行い情報共有に努めている。月末にはケアプランの評価を行いプランの見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の希望に応じて外出や外泊、体調不良時の御家族の付き添い宿泊等、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議を通じて、民生委員や地域の代表、行政担当者等と愛の里の現状などを話合ったり、防火訓練時消防の方の協力を頂いている。近隣の図書館や美容院の活用、学校行事の参加、ボランティア・小、中学生の慰問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を支援しながら、医療機関との連携を深め、医師との情報交換を行い、利用者の状態に応じた支援を行っている。御家族と受診される際は、状態報告を行い、受診後は結果報告を聞いて記録に記載している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、定期的な受診支援を行っている。専門主治医による歯科や眼科などの定期受診で、家族同行の場合の結果は報告をもらい情報交換で適切な医療を受けられるように支援している。	

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師にその日の状態の申し送りをしている。日中、夜間を問わず急変見られた場合、状態報告し指示や対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の状態に応じた、十分な治療と入院が出来るよう医療機関と情報交換を行っている。入院した際は定期的に医師や看護師との情報交換、家族からの状態報告、面会等を行い心身のダメージを軽減出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当する方はおられないが、面会時等に本人や御家族の意向は確認し記録に残している。重度化や終末期に向けた方針を作成し、事業所に対応し得る最大のケアについては説明を行っている。	重度化や終末期に向けた事業所側の方針は面会時に家族に伝えて文章化している。家族の意向を確認し事業所でできる最大のケアを全職員で共有し話し合いを行い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や避難訓練を活用し訓練を行っている。夜勤時の緊急対応については、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は利用者の参加、避難誘導、初期消火、通報訓練を年2回実施している。スプリンクラー設置。地域の消防団への協力体制を整えている。	年2回昼、夜間想定で避難訓練を行っている。地域消防団や隣接する特養からの応援体制もできており、運営推進会議のメンバーで訓練を実施する事もある。避難場所も決めている。	災害時の非常食や毛布などの備蓄、また各部屋ごとに利用者の身体状況が掲示されることで、速やかな誘導に繋がり、災害時の更なる安全確保が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛け、対応に配慮し職員間で気付いた場合にはお互い注意するようにしている。職員会議等では自己の振り返りをするよう呼び掛けを行っている。	一人ひとりの人格を尊重し気付いた時にさりげなく言える環境作りを心掛け、職員の勉強会では同じ目線の言葉かけや、プライバシーを損ねないトイレ誘導などの対応について常に確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服選びや入浴、外出等利用者の意思確認を行い対応、支援している。表情や行動、反応を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に合わせた支援に心がけている。外出等本人の希望時に支援できる様配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日の衣服については一緒に選んだり、いきつけの美容院への支援、髪染等本人の意向を聞いている。化粧品や整髪クリーム等希望の品を準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や片付けを一緒に行ったり、食べられない物は代替品を準備している。畑で収穫した野菜を一緒に調理し食事に出す事で話題作りにもなり、楽しく食事が出来る雰囲気作りに努めている。	簡単な調理や片付けは手伝ってもらい、献立は決まっているが利用者の希望があればメニューを変えることもある。テレビを見ながら食事をとり、収穫した野菜は話題作りにもなっている。また食前に音楽を流し、嚙下体操も検討中であり、楽しく食事を楽しむことのできる支援に努めている。	

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は残食量から把握している。献立やカロリーは併設する特養の栄養士のもと行われている。水分量についても把握し少ない方にはこまめに声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛け、確認をし週3回義歯洗浄剤で消毒行っている。洗口液でのうがい、舌ブラシ等を使用するなど口臭予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや失禁状態に応じて、トイレ誘導の時間、紙パンツやパット類を本人に合わせ検討している。	一人ひとりの排泄パターンをチェックしながらトイレ誘導を促し、本人の希望に任せて紙パンツやパット使用の利用者も居る。紙パンツから自立排泄になった利用者もあり、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や体操、園外散歩等支援し、便秘については予防しているが、それぞれ排便がない時には下剤を服用して頂いている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できる体制ではあるが、体調や高齢という事も考慮しながら支援を行っている。拒まれる方へは声掛けの工夫や時間帯を変えたりとタイミングを見ながら納得した状態で入浴できるように配慮している。	毎日入浴できる体制で、体調を考慮しながら支援している。本人の希望に合わせ、声掛けするタイミングや同性介助、気分を変えて入浴剤の使用など、入浴を楽しむ支援をしている。また季節の温度差対策もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事やレク活動を促したり散歩等を取り入れ体内リズムを整えるようにしている。寝付かれない方は話をしたり一緒に過ごす等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事説明書で内服薬の把握をし変更時は個人記録、申し送りノートへ記載している。服薬時は職員2名で行い、確実な服薬介助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事出来ない事、得意な事や不得意な事を理解した上で家事や畑作り、裁縫等お願いしている。買い物や地域行事への参加等を行い、楽しみや気晴らしへの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節事に行事計画を立てて出掛ける支援を行っている。利用者の状態を見ながらドライブや外食、散歩等を行っている。また、墓参りや買い物等利用者の希望に応じて支援している。	事業所の年間行事を盛り込んだ外出計画が組まれており、体調を考慮しながら全員参加で外食を楽しんだり、ドライブ、散歩など、本人の希望を把握し家族の協力のもと行っている。利用者の希望があれば墓参りや買い物にも出かけ、日常的な外出支援になっている。	

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	御自分で管理されている方は買い物時支払いをされたり、買い物に依頼された時はご自分の財布から支払われている。管理の難しい方は、御家族の希望により預かっている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	要望時や贈り物が届いた際には電話を掛けて差し上げたり、取次ぎの支援を行っている。静かに話ができるように環境に配慮している。手紙や年賀状等書かれた際は出す等支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は個人の持ち物や作品を飾りその人らしい部屋作りをしている。廊下の壁等にも作品を展示し利用者同士の話題作りに努めている。玄関ロビーにはソファとテーブルを設置し気の合う人同士が集まって談笑しながら過ごせる空間作りに努めている。	共用空間は明るく清潔感にあふれ、広い廊下には利用者の手作り作品が飾られている。玄関ロビーのソファや食堂では利用者が集まって楽しく過ごせる空間作りを工夫し、トイレも利用者の部屋を挟んで一カ所づつ設けられ、居心地よく過せる工夫がされている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下に椅子やソファを設置し、一人で新聞を読まれたり、他者と音楽を聴いたり過ごせる空間作りに努めている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や仏壇をもって来られている方や御家族の写真、植物を部屋に飾りその人なりの好みに合わせた居心地の良い環境の中で過ごせるように配慮している。	居室は本人のなじみの家具が持ち込まれ、仏壇や写真、観葉植物などが配置され、利用者の希望で畳もしくはベッドの選択も可能である。それぞれの好みを活かし 居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具の位置は、本人の要望を聞きながら安全に自立した生活が送れるように配慮している。一人ひとりの出来る事への把握を行い声掛け、見守りながら、持っている能力を活かし自立して暮らせるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島 グループホーム愛の里

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない